

120) 日記

風が日記をめくってく
時をはぐれた過ぎし日が
午後の陽射しによみがえる
あの夏の日の恋心

風が日記をめくってく
別れを告げて泣きながら
見知らぬ街を歩いたと
か細い文字で書かれてる

風が日記をめくってく
時の彼方へ迷いこむ
もうかえらない思い出が
写し出されるありありと

風が日記をめくってく
過去と未来を行き来する
すべてを閉じてしまいたい
別れのページこわいから